

# 持続可能な医療を求めて 次世代医療構想センターが目指すもの

今、医療が劇的に変わっています。

日本は2010年をピークとして急激な人口減少が進んでいます。そして、構成年齢の高齢化と少子化から疾病構造が変化し、さらに医薬品や医療機器などの医療技術の高度化・高額化も相まって、国民医療費の高騰が見られています。従来型の潤沢な予算に基づくゆとりを持った医療提供を行う余裕はすでに存在せず、限られた資源を上手に活用する体制に変化していかなければなりません。こうした医療提供に対する変化の波は、もちろん千葉県にも直撃しています。

今のままでは将来の医療提供が維持できない局面にきています。国や県の進める「三位一体改革」の目標期日は刻一刻と迫っています。2024年には医師の働き方改革が適用され、2025年までには地域医療構想の実現、2036年には医師偏在の是正が目標と定められています。これらの改革を実現し、これからの日本に合った医療提供体制に作りかえようと、行政は真剣に取り組んでいるのです。

医療提供する側としてこの大きな変化に対応するために、2019年8月、2年8か月間の時限付きで作られたのが、千葉大学医学部附属病院 次世代医療構想センターです。当センター立ち上げ初年度にあたる約8か月間の活動内容が本報告書の本編・補足資料にまとめられています。一言でいうなら行政と大学の垣根を超えた大胆な試みであり、全国でもあまり例を見ない、珍しい取り組みと言えます。

実際に活動を開始してみると、医療提供体制を変更することは大変なことであると痛感します。医療は地域に根差したプロジェクト・事業であり、大きな雇用を生み、経済を回すという側面を持っています。少なくない公的な資金が投入されており、提供内容の専門性は高く、質の評価は簡単ではありません。医療専門職のほとんどは国家資格の有資格者であり、一般に参入障壁が高い産業領域です。同時に救急医療や新生児科などの特定の分野では日常的に長時間労働となっており、現場の医療専門職の使命感や義務感によって辛うじて提供が維持されている場面も目にします。このような医療という分野の事業としての「硬さ」と、そこで展開される「柔らかさ・人間くささ」の両方を理解しなければ、体制の変更はうまくいきません。我々はそれを真摯に理解して活動していかねばなりません。

当センターの活動はまだ始まったばかりですが、内容をご覧いただけましたら、千葉県そして日本全国の未来世代に医療も残すために、知恵を絞って行動していく必要があります。そのため、2019年度はまず千葉の医療の現状を知るためにヒアリングを実施し、セミナー等で関係者と問題意識を共有することを始めました。多方面の方々に開かれたセンターを目指しておりますので、忌憚のないご意見、ご提案を頂き、それらを糧に残る2年間の活動につなげていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。



吉村 健佑

よしむら けんすけ  
吉村 健佑

次世代医療構想センター  
センター長・特任教授